会員彼是

新著『さまよえる人生』を上梓して

大類善啓（会員）

中国ハルビン市方正県にある日本人公墓を通して、旧満州における日本の加害と被害の実相を伝えるべく「方正友好交流の会」を立ち上げたのが２００５年、すでに20年経つ。そのこともあり、旧満州で苦労された方々の自分史がよく送られてくる。やはり、どうしても書いておかなければいけない、子どもたちにも自分の体験を知ってほしい、という気持ちは痛いほどわかる。

しかし私にはそんな「自分史」を書くような内なる声はない。ところが方正と関わるようになり、会員になられた上野千鶴子（社会学者・東京大学名誉教授）さんから「自分史を書きませんか」という葉書をもらったのだ。「自分史？…」そんな気持ちだった。たまたま親しい友人にそのことを言うと、「上野さんから言われたなら書かないといけないでしょうね」と言うではないか。出版社に言えば、ぜひ書いてください、と言う。そうして書き上げたのが『さまよえる人生―よくぞここまで生きてきた‼』である。

本の帯には上野さんの次のような推薦文がある。「次にどこへ行くかわからない、読みはじめたら止まらない自分史。著者の人生を貫くのは、並外れた好奇心と正義感だ。こんな配偶者を持ったら、はた迷惑だが退屈しないだろう」。

本誌の読者には、関心があるだろう中国との関わりについても拙著に記しているので、紹介しておこう。

私が初めて中国を訪れたのは１９７８年の秋だった。開放経済体制に入って間もない頃である。街には自転車があふれ、青い人民服の時代、上海の街を人々は交通規制などどこ吹く風、まるで気にせず悠々と歩いている。〝文化大革命〟のイメージが残っている私には驚きだった。「これが中国なんだ！」と思った。

そして中国との仕事をしたいと思い、それは手塚治虫さんのアニメ作品『鉄腕アトム』の中国中央テレビへの１年間の放映、孫文を支えた知られざる梅屋庄吉のテレビ特別番組の制作・放映、そして羽田澄子演出作品『嗚呼 満蒙開拓団』の映画作品につながった。また『ある華僑の戦後日中関係史―日中交流のはざまに生きた韓慶愈』（明石書店）を上梓できた。そう思うと感慨無量である。

ぜひ新著『さまよえる人生』をお読みいただき、ご叱正いただきたいと思っている。

『さまよえる人生―よくぞここまで生きてきた‼』（批評社：定価２０００円＋税）

